



第22回源太桜まつり 1年ぶりの復活を祝う

市内全域で桜の開花が見られ始めた3月31日、源太桜まつりが土谷公民館で開催され、大勢の人で賑わいました。主催団体の高齢化等の影響により昨年は開催されなかったお祭りですが、今年度は地域の企業や有志の協力により復活。当日は天候も良く、来場者はバザーをはじめ、市天然記念物に指定されているエドヒガンザクラ(高さ約17m、樹齢推定300年以上)を見に、旧金毘羅街道を歩くなど地域の散策を楽しんでいました。



渡るときは手をあげて 春の交通安全教室

市内の各学校で春の交通安全教室が行われています。市が、松山南警察署、松山南交通安全協会、東温市交通指導員の協力のもと、交通ルールを楽しく学んでもらい、新入学児童や園児が通学時に交通事故に遭うことを防ぐ目的で毎年行っているものです。今年度は22箇所で行われ、約2,000人が参加します。市交通指導員は「子どもたちが被害に遭う悲惨な事故がなくなるように、しっかりと交通ルールを学んでほしい」と呼びかけました。



拝志小学校少年消防クラブ が消防庁長官賞受賞

総務省消防庁主催で、平成30年度優良少年消防クラブ・指導者表彰が東京で開催され、拝志小学校少年消防クラブが全国4,647団体の中から「優良な少年消防クラブ消防庁長官賞」という名誉を受賞しました。同クラブは昭和62年に発足し、現在では小学4年生で組織。防災学習や避難体験等を研究して、学習発表会を通じた地域への発信を行っています。登下校時の被災を想定して、登校班長の役割を確認するなど自主的な活動が広がっています。



登下校を見守り ランドセルカバを贈呈

4月4日、NTTタウンページ(株)より、いのがんが描かれたランドセルカバが贈呈されました。市内小学校新1年生に配られます。同社の松本四国本部長は、「今年でこの取組みも7年目を迎えます。これからも市と連携して少しでも地域の暮らしに役立つことができれば」と話してくれました。いのがんのランドセルカバは、地域の方からもよく目立つと好評です。新1年生のみならず、いのがんと一緒に交通ルールを守って元気に登校しましょう。



東温らしさを売り出す さくらセレクト選定式開催

3月25日、東温市さくらの湯観光物産センターで、SAKURASOの選定式が行われました。「東温市らしさ」をコンセプトに、市内の中小零細企業が連携できる体制を整えた新しいブランドが立ち上がっており、コンセプトブックや動画で情報発信を行っています。当日の会場では、選定された商品の試食・試飲が行われ、今後、同センターを拠点に地域資源を活かした新商品の開発や、選定商品の販路開拓が行われる予定です。



日本初!東温市にスラック ラインパークがオープン

重信川かわまちづくりに東温市が新たに登録されました。かわまちづくりとは、景観や歴史など地域の特性を活かし、河川とまちが融合した良好なまちづくりを目指す取り組みです。会場のかすみの森公園では、日本初のスラックラインパーク記念イベントとして、元世界チャンピオン大杉徹さんの演技などが行われました。大杉さんは、「東温市にスラックラインパークを作ったよかったです。皆さんに思ってもらえるよう、普及に努めていきたい」と語りました。



地域福祉の拠点 総合保健福祉センター起工式

春の日差しに包まれた3月28日、市本庁舎西側で東温市総合保健福祉センターの起工式が執り行われました。市長をはじめ、議長、教育長、市社会福祉協議会長、見奈良区長など多くの方が参列した会場で、神主の方は「見奈良という土地は、平坦な地形からその名がつけられたと言われています。地域保健・福祉の経典としてふさわしい場所になることを願っています」と話しました。センターは今年度工事を行い、2020年3月に完成予定です。



地元商店街に新しい風 横河原朝市が賑わう

4月14日、横河原駅前コミュニティスペースで第9回横河原朝市が開かれ、早朝から多くの来場者が賑わいました。この朝市は、「みんなで朝ごはん」をテーマに横河原商工連盟が2年前から主催しており、回を重ねるごとに来場者が増え、開場前から行列ができるほどの盛況ぶりです。来場者は、パンやスープ、コーヒーなどを片手に、出店者との会話や音楽の生演奏を楽しんでいます。次回は、6月9日(日)8時から同会場で開催予定です。